



・はじめに

3月議会の活動報告です。1月から再発令された緊急事態宣言がやっと解除されたと思ったら蔓延防止措置の発令。幸い稲城市は対象外となりましたが、新型コロナの終息は見通せない状況です。こんな時こそ自分が一番貢献できる分野にこだわろうと、3月議会の一般質問では、ICTの取り組みについて質問させていただきました。裏面は最近個人的に気になっている“コミュニティづくり”について私なりの考えをまとめました。

【一般質問①】 行政サービスにおけるICT活用方針について

質問：市のICT利活用の現状と課題は？業者に丸投げ状態には陥っていないか？

（回答）住民情報システムや福祉総合システムなどを活用し業務を進めており、市民サービスを持続するための運用や体制づくりが課題である。最終仕様は市で判断する等、市主導で進めている。

質問：市の情報セキュリティに対する考え方や主な取り組みは？

（回答）情報資産及び情報システムの管理を徹底し、様々な脅威から防御することが必要不可欠と考えている。ネットワークの分離やメール・ファイルの無害化処理等の外部からの防衛対策に加え、内部からの情報漏えい対策にも、取り組んでいる。

質問：市の業務システムの効率化の考え方は？

（回答）政府において自治体の情報システムの統一化を進めており、その情報を収集していく。稲城市はいわゆるレガシーシステムを抱えておらず比較的移行は容易と考えるが、標準システムの仕様分からないので何とも言えない。

質問：市職員へのタブレット導入の目的は？より付加価値の高い業務を行えるよう進めていくのか？

（回答）タブレット端末は、ペーパーレスやWeb会議に活用することで、コスト削減・業務効率化・デジタル化推進を実現するため導入した。まずはタブレットが十分に活用できるように進める。

※使える職員に制限を加えるなど「出る杭を打つ」ようなことはしないようにお願いしました。

質問：市の「行政サービスのオンライン化」への取り組み予定は？

（回答）公共施設予約システム、電子申請ポータルサイトなどを行っており、今後も取り組んでいく。

質問：市は今後「ICTの利活用」についてどのように取り組んでいくのか？IT人材の育成は？

（回答）AIやRPA等のICT活用の必要性については、市も十分理解しており、それを踏まえて業務効率化や市民サービス向上につながるよう取り組んでいく。IT人材の育成については、近隣市との勉強会等も行っており、専門業者からもノウハウを学んでいきたい。

【一般質問②】 学校ICT環境整備について

質問：市の学校ICT環境の現状は？市教委で定めているタブレット運用ルールは？

（回答）1人1台のタブレット端末の配布が昨年12月中旬に完了。「タブレット端末等活用ルール」を作成し、学校の職員研修や保護者への配布で周知を図っている。

質問：市の教育プランにおける「情報手段の基本的な操作の習得」の取り組み状況は？

（回答）各学校の「情報教育年間指導計画」に基づいて指導を行っており、小学1年生ではアプリ起動・終了、カメラ撮影、ひらがな入力など、小学校卒業までには更にローマ字入力による文書作成、表計算ソフト、プレゼンソフトを身に付けさせること、更に中学校ではプログラム作成まで発展させていく。日々の活動の中でもタブレット端末を活用する機会を設け、効果的に指導していく。

質問：学習指導要綱が求める「プログラミング的思考」は「プログラミング能力の習得ではなく、プログラムで何ができるか・できないかを学ぶこと」と認識しているが、市の考えは？

（回答）各小学校で「プログラミング教育全体計画 および指導計画」を作成して取り組んでいる。プログラミング的思考を育み、プログラムの働きや良さを知り、ICTが身近な課題解決に役立つことに気付くよう取り組んでいく。

質問：学校ICT環境整備を進める上で、保護者への説明及び協力は？ICTの得意な保護者や地域の方に協力をお願いすることへの市の考えは？

（回答）タブレット端末の活用ルール、各学校の学校だより等を通じて説明しており、今後も必要に応じて協力も依頼していく。保護者や地域から協力は、学校支援コンシェルジュやPTA等と連携し、学校の実情に応じて取り組んでいく。

質問：市の学校ICT環境整備の今後の進め方は？タブレット活用には無線LAN整備が必要では？

（回答）GIGAスクール構想推進に有効な環境整備を行うこと、現在はプロジェクター、マグネットスクリーン、タブレット画面をワイヤレスで投影する機器等の整備を進めている。現在のLTE方式を基本として考えており、無線LAN導入は考えていない。

地域コミュニティ活性化に関する考え方

稲城市に転居して20年余り、様々な地域コミュニティ活動に関わってきました。防災・防犯、高齢者見守りや子育て支援など、これまで以上に地域コミュニティへの期待は高まっていると思いますが、コミュニティ活動の現状は、“現状維持で精一杯”の状況です。

地域コミュニティを活性化するには、これまでの慣習に捉われることなく、事業内容の見直し、役員の負担軽減、参加しやすい仕組みづくり、などが必要だと考えています。

毎年恒例のイベントが開催できない今こそ、住民ニーズに応えているか、どれだけの住民が参加しているか、もっと効率的にできないか、などの視点で見直していきたいと思います。

1. 地域コミュニティの定義(今回は次のように整理しました)

地域コミュニティには、「地縁型」と「地域テーマ型」の2つにあると考えています。

「地縁型」－地域の縁でつながるコミュニティ(自治会・町会など)

「地域テーマ型」－地域に紐づく目的・趣味でつながるコミュニティ(市立小中のPTA、青少年育成地区委員会、体育振興会、イベント実行委員会など)

対象となる住民やテーマが広い「地縁型」がやはり地域の中心になると考えます。

2. 地域コミュニティ活動の課題と求められる改善の取り組み

(1) 担い手不足(役員の高齢化・固定化)

特定の人ボランティア精神や責任感に頼っており、市や関係団体との交流など、関連活動の負荷も大きく、誰もやりたがらない

(2) 住民のニーズ・ライフスタイルとの乖離

加入するメリットが感じられない・分からない。活動に参加しにくい(日曜しかイベントが無い、Web・SNSでの広報が少ない・申込みできない、など)

これらの課題を解消するためには、次のような改善の取り組みが必要と考えます。

【改善1】自治会活動の原点に返り、過去の慣習などに捉われず、住民ニーズ・満足度、費用対効果などの観点から事業内容の棚卸しを実施する(マンネリ化した事業、手段が目的化した事業、参加者の少ないイベントの取りやめを検討する)

【改善2】役員の働き方改革を進める(業務・役割の分散、ICT化、マニュアル化、自前主義にこだわらず「地域テーマ型」コミュニティ・事業者との連携も考える)

【改善3】住民・会員が参加しやすい・参加したいと思える仕組みづくり(活動・イベントの趣旨・参加するメリットを説明する、分かりやすい広報・WebやSNSの活用等)

3. そうは言ってもなかなか効果的な打ち手が見つからないジレンマ(←今ココ)

【ジレンマ1】「地縁型」コミュニティの活動は、必ずしも楽しいこと・皆がやりたいと思えることばかりではない。コミュニティを支える目立たない仕事を支える人が足りない。

【ジレンマ2】参加しやすい・したくなるイベントの企画・運営・広報まで手が回らないし、できる人材が集まらない。まず「お膳立て」をするための人が足りない。

→夏祭りの警備を外注してみる、有志でマルシェを開催してみる、地域で合同の避難所設営訓練をやる、などできるところから少しずつ着手しているのが現状です。

【編集後記】

3月議会の一般質問では、行政と教育のICT化を取り上げました。これはIT企業出身の私としては、外せないテーマなので継続的に取り組んでいきます。地域コミュニティについては、最近思うところがあり、自分の考えを整理してみました。地縁型コミュニティは様々な考えの方の集合体ですから、理想論だけでは通らないし、一方で全ての意見を聞いては何もできません。難しいです…

編集・発行：「中田中を応援する会」

〒206-0824

稲城市若葉台3-1-1若葉台ワルツの杜F401
(携帯) 090-3596-5118

(メール) ataru.nakata@gmail.com

(ホームページ) <http://ataru-nakata.com>
(Facebook)

<http://facebook.com/ataru.nakata>

(Twitter) @ataru3